



海田南小学校
通級指導教室だより No.13
平成31年 2月 22日(金)

今学期も後 1ヶ月！

今学期も残すところ1ヶ月となりました。
かがやき教室では、進級に向けて、学んだスキルの定着度の確認や来年度に向けての準備を行っています。
保護者の皆様には、お忙しい中、アンケートにご協力していただき、誠にありがとうございました。回答いただいた事項をもとに、来年度の計画を立てていきます。
児童アンケートでは、全員が「かがやき教室で学習することは楽しみ」と回答しており、何より嬉しく思いました。
「ここに来たら、自分の良いところが見つかる！」と思える教室づくりを、今後も引き続き目指していきます。

今月の音読トレーニング

今月の音読トレーニングには、絵本『みえるとか みえないとか』（ヨシタケ シンスケ作）を使っています。
この絵本は、視覚障害について書かれている本ですが、自分が思っている「ふつう」「当たり前」が、環境・条件等が変わると「ふつう」ではなくなることを、みんなと「違う」って「おもしろい！」ということを感じさせてくれる絵本です。
読むトレーニングとして、内容を読み取るトレーニングとして、相手の気持ちを考えるトレーニングとして・・・用途は、個々によって違いますが、どの子も興味深く読んでいます。



原因が分かると、見方が変わるかも？！

先日、広島県立教育センター 特別支援教育・教育相談部 竹野先生より、「特別な支援を必要とする児童生徒の食に関する指導」について、お話を伺ってきました。

自閉傾向のある子ども達の中には、感覚過敏から人との関わりが苦手になっている場合もあるそうです。

「大きな音が耐えられない」
「～の音は苦手」
「近づかれると緊張する」
「触れられるのが嫌」
「この触感は気持ち悪い」



例えば、そばにいられると落ち着かない感覚になる子は、その感覚を相手にうまく伝えることができなくて、自己防衛から「あっち行け！」と叫んだり、押しのけたりします。それでも、離れてもらえない時は、教室から飛び出してしまうこともあります。

行動だけ見ると、注意・指導を受ける事項ですが、「なぜ、そうするのか」専門的な知識をもっていると、見方が変わってきますね。

視覚・嗅覚・味覚に関しても、独特の感じ方をする場合があるそうです。

「色や形が気持ち悪い」
「混ぜると、ごちゃごちゃに見えて食べられない」
「匂いで気分が悪くなる」
「かたいもの・熱いものは痛い」



そのため、極端な偏食になってしまうこともあります。

ですが、この感覚を直すことはできないので、無理やり食べさせてはいけない との事でした。

食べることを無理強いすることで、心理的にも身体的にも、長期的な悪影響を生じさせることがあるからです。

でも、いろいろな物を楽しく食べられるようにしていきたいですね。

そこで、偏食指導の五つの原則…

① 食べない原因を考える

食べた経験がなくて不安？ 噛んだ時の音が嫌？ 匂い？ 味？

② スモールステップで取り組む

わずかな量からトライ！

「食べられた！」という思いをもたす

わずかな量とは…
飲み物なら1滴
食べ物なら米粒4分の1程度

③ 強制しない

嫌な体験が記憶に残ると、次から強い拒否反応がおこる

④ 環境等の変化を少なくする

食べる場所・手順をこころろ変えない

⑤ 少しでもできたら褒める

静かに褒める(大げさ×)

「後ひとくち」と言ったら、
必ず約束を守る

偏食指導は、低学年の時期までは、効果が出ないことが多いそうです。しかし、取り組み続けていると、生涯にわたっての食の広がりにつながります。

「食べてみようかな。」という気持ちになったり、パニックを起こさずに自分なりの方法で対処できるようになったりすることを目指して、学校でも指導していきます。